

学校法人上智学院
上智短期大学
機関別評価結果

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

上智短期大学の概要

設置者	学校法人 上智学院
理事長名	高祖 敏明
学長名	高祖 敏明
A L O	藤田 保
開設年月日	昭和48年4月1日
所在地	神奈川県秦野市上大槻山王台999番地

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
英語科		250
	合計	250

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

上智短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成20年3月19日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成18年7月20日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当該短期大学は、「キリスト教ヒューマニズム」、「国際性」、「英語教育」を教育理念の中核をなすものとし、「他者への理解と奉仕」、「他者との共生」、「自国と他国の文化理解」を人間観・世界観とする教育を目指している、短期大学の英語教育のモデルとなる短期大学である。

教育課程の内容が多彩で充実している。コース制、セメスター制度、習熟度別クラス編成、少人数クラス編成などへの取組みも積極的で教育的効果の達成に結びついている。言語スキルの授業のみならず、全人教育を根幹とした「国際性」を培う英語教育を行い、教養は人間学を核として人文・社会・自然の分野においてバランスのとれた教養教育を目指している。

学生の約38%が参加する「家庭教師ボランティア」は、近隣に居住する外国籍市民に日本語、英語などの学習支援を行い、また相談相手として活動する他に類をみない課外活動プログラムである。このプログラムは平成16年度の特徴ある大学教育支援プログラム（特色GP）に採択されており、今ではこのプログラムに参加したいがために入学してくる学生がいるほど実績のある取組みとなっている。

学生生活支援は組織的に行われ、健康管理や奨学金などの配慮も充分である。学生支援、進路支援も行われており、高い編入学率、就職率は如実にその支援体制の確かさを示している。

財政的基盤が安定していることが教育力を維持していると思われる。学長を兼務する理事長が理事会、常務会でリーダーシップを発揮し、適切な管理運営を行っている。短期大学の運営においても各種委員会や学科業務連絡会議のボトムアップによる提案重視の運営がなされ、学科長と学長との間で密接に連絡を行っており、教授会でも学長のリーダーシップが発揮されている。人事管理も新人事制度を導入し、職員能力引き上げに寄与している。

自己点検・評価のための規程および組織は存在するが、定期的な自己点検・評価報告書はこの5年間作成・公表されていない。しかしながら、教授会などで毎年、自己点

検・評価に関する検証がされており、全教職員がその活動に携わっている。

相互評価のための規程や組織は未整備で、定期的な相互評価は行われていないが、過去に行われた南山短期大学との相互評価の結果が、カリキュラムの改正、課外活動の活性化などに結びついている。これは教育改革・改善に積極的な意欲を示しているものといえる。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「キリスト教ヒューマニズム」、「国際性」、「徹底した英語教育」の教育方針が開学以来カリキュラムに維持されており、したがって、教育目的・教育目標が安定している。
- 教職員対象に毎年定期的に説明会を開催し、教育目的・教育目標を確認させ、その実現に向かって組織的に取り組んでいる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 書庫オリエンテーリングによる学生の図書館利用教育や特色 GP「家庭教師ボランティア活動」支援の集書計画なども取り組んでいる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 過去 3 年間に課外活動団体数と参加学生数が大幅に増加し、課外活動が活発に行われている。
- 学内給付奨学金が充実している。
- 全国からの学生に配慮して学内に寮が設置されている。

評価領域Ⅵ 研究

- 学内において特定の研究課題に対し、当該短期大学の教職員を中心に併設大学の教職員を含めた共同研究を行える規程を整備し、研究資金を受けて研究が進められている。
- 6年間の継続勤務を経て半年間の教員特別研修期間を取得できる制度があり、活用されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 特色 GP 家庭教師ボランティア活動の継続のため、経費や安全面の方策を講じ、教職員全員で学生の支援体制を取っている。

評価領域Ⅸ 財務

- 中・長期の財政計画「グランド・レイアウト」を策定し、財政計画の策定、財政基盤の確立、外部資金の積極導入を展開している。単年度の収支バランスを考え

た事業計画、予算執行の仕組みが確立している。財務体質も健全である。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 「履修要覧」には、「目的」、「概要」、「授業形態」、「(一回ごとの) 授業計画」、「評価方法」、「テキスト」、「参考図書」、「履修条件」などを項目ごとに明記し、各科目に統一性を持たせる。
- 専任教員と非常勤講師との間に授業に関する共有意識を持たせる工夫が欲しい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

キリスト教ヒューマニズムに基づき、社会的役割を積極的に担う女性の育成を目的として創立されたことが明確に示されており、建学の精神・教育理念に基づいた教育目的が確立されている。すなわち、建学の精神・教育理念に裏打ちされた「他者への理解と奉仕」、「他者との共生」、「自国と他国の文化理解」、および「国際性」が教育課程に反映されている。

非常勤教員を含めた教職員には、4月のオリエンテーション時に、学長が建学の精神・教育理念を話している。また、学生に対しては、オリエンテーション・キャンプ時や20人ずつの「人間学」の授業で周知させている。

平成13年に学院が出したグランド・デザイン「21世紀の上智学院」の一部として短期大学のあり方を学院全体の中で考えてきた。平成15年から学内で具体的な改革を毎年重ね、年間計画とその点検という形で自己点検を続けている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

英語科のそれぞれの科目（英語、教養、基礎、専門）の講座内容が多彩で大変充実している。一方では、コース制、セメスター制度、習熟度別クラス編成、少人数教育などへの取組みも積極的で教育的効果の達成に結びついている。教育目的・目標が英語、教養、基礎、専門の教育課程の各分野に反映されている。すなわち、英語科目ではスキル能力の習得、教養は人間学を核として人文・社会・自然の分野においてバランスのとれた教養教育を目指している。授業内容・教育方法の改善に関しては、「学科会議」を中心にファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程を制定して、「学生による授業評価アンケート調査」、「学期中の授業評価」を実施して授業の修正・改善にあたっている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

短期大学の教員として十分な資格と資質を兼ね備えた教員が、全員で教育および学生生活の指導助言に当たり、教育目標達成のため努力している。教員採用、昇任は当該短期大学が定めた規定通りに行われており、教員の年齢構成もバランスが取れている。教員は授業および研究活動に意欲的に取り組んでいるが、特筆すべきは、全専任教員が一丸となって学生相談や指導を行っていることである。

また、教育目標達成のために必要な教育環境、施設・設備などは充実しており、すべてにおいて短期大学設置基準を上回っている。図書館の整備も着々と進められており、図書館の基本構想を策定し、学生、教員のニーズを捉えた運営、将来を見据えた運営に努め、教員のみならず学生の教育、研究、学習を支援する体制を取っている。学生の教育・指導には十分な教育環境にある。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成度については、「単位認定の状況表」によると履修人数、単位認定の方法、単位取得状況、成績評価などは、おおむね問題はない。授業内容・教育方法に関する改善への取り組みでは授業に対する学生の満足度の調査にも十分な評価が出ている。各教員は学生の満足度に敏感であり、授業改善に励んでいる。特に「退学者一覧表」にみられる退学・休学者の減少率は、教職員の短期大学教育への取り組みに対する強い熱意がみてとれる。ゼミナールの担当者がアドバイザーの任を兼ねて、カウンセラー、健康管理室の専門医との連携により学生の相談に対応している。教育改革・改善のなかで学生とのコミュニケーション時間の拡大を図るなど教育効果の達成・学生支援に積極的に取り組んでいる。卒業生からの短期大学評価も現状の改善・改革を推進すれば今後さらに向上するものと期待できる。

評価領域Ⅴ 学生支援

広報・入試事務体制が整備され、受験生に対して必要な情報がわかりやすく開示されている。入学手続き者に対して十分な支援が実施されている。

入学者に対して履修や学生生活についての指導が充分に行われている。習熟度の低い学生、優秀な学生の双方に配慮した学習支援がされている。アドバイザーによる個別指導に力を入れている。

キャンパス・アメニティは整備されている。学内の寮や無料スクールバスによって、下宿生、通学生の双方に対する学生生活への支援がされている。学内給付奨学金が充実しており、経済的支援への配慮がされている。就職希望者、進学希望者の双方に対して全学態勢できめ細かい支援を実施し、成果をあげている。

評価領域Ⅵ 研究

正課、課外ともに学生指導に忙しい中で、教員の研究活動は意欲的に行われている。教員の共同研究に関する規程が作られ、資金を受けての研究が進められている。上智大学との共同研究も成果をあげている。

教員の研究成果を発表する紀要が発行されている。個人研究費は十分に支給されており、研究室も整備されている。日常的な学務の負担は相当に大きいが、研究日は確保されている。6年間の継続勤務の後に半年間の教員特別研修期間を取得できる制度があり、活用されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

生涯教育を当該短期大学の教育理念と共通のものと捉え、コミュニティ・カレッジやボランティア教育に取組み、社会活動を地域社会に受入れてもらうため、行政、教育機関、商工団体などと連携を深めている。また、学生の社会活動も活発で、文部科学省による特色 GP に採択された家庭教師ボランティア活動や児童英語支援ボランティア活動など、多くの学生が参加し、地域社会に貢献している。地域の特性をいかした多彩なボランティア活動を入学理由にあげている学生もいるほど、学生が積極的に参加している事実は、当該短期大学の教育理念に裏付けられた全人教育を実行しているといえる。

当該短期大学の三つの教育方針を徹底するため、英語研修を兼ねた国際交流も盛んで、海外への短期留学やホームステイに学生は意欲的に参加している。さらに、教員も長期在外研究や国際会議出席、調査研究など活発に行っている。

評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人の公共性および運営の適切性確保をめざし、管理運営に関わる諸規程を整備して体制を整えている。理事会は適切に運営されており、理事長のリーダーシップも適切に発揮されている。また理事会の下に常設会議体「常務会」を置き、管理運営についての体制が確立している。

理事長が学長を兼任している関係上、学科運営の実質的な執行機関は「学科業務連絡会議」であるが、学科長と学長との間で密接に連絡を行っており、教授会の運営体制は確立している。学長のリーダーシップも発揮されていることがうかがえる。

職員教育研修制度や新人事制度は個々の能力向上、事務の効率化を図る制度として取り組んでいる。

職員人事制度が再構築されたことによる職員の能力開発と人材育成の取組みがされている。

評価領域Ⅸ 財務

中・長期の財政計画「グランド・レイアウト」を策定し、財政計画の策定、財政基盤の確立、外部資金の積極導入を展開している。

各部局に「特別予算概要計画書」を提出させ、理事会で審議・決定された「予算編成大綱」と方針を合わせて、単年度の収支バランスを考えた事業計画、予算執行がされている。決定された予算は財務局から「予算示達書」に査定結果を説明し、予算執行上の留意点について「予算執行のてびき」を配布し、適切に予算執行が行われるようにしている。

各種財務比率により財務状況は健全であり、学校法人会計基準に準拠し、各計算書類などは適切であり、公認会計士の指摘はない。

教育目的に応じた施設は整備され維持管理もされている。

評価領域X 改革・改善

自己点検・評価のための規程および組織は存在するが、定期的な自己点検・評価報告書はこの5年間作成・公表されていない。しかしながら、教授会などで毎年、自己点検・評価に関する検証がされており、意識は高い。自己点検・評価について、委員会および小委員会を組織、その活動に全教職員が携わるだけでなく、学校法人の事業運営に係わる項目には、学校法人職員も加わるなど組織、体制も整備されている。今回の第三者評価を受けるための報告書作成プロセスを、普段の教育・研究・社会活動の点検・評価や、建学の精神・教育理念に基づく教育目標の達成度の検証に活用している。

相互評価のための規程や組織は未整備で、定期的な相互評価は行われていないが、過去に行われた南山短期大学との相互評価の結果が、カリキュラムの改正、課外活動の活性化などに結びついている。これは、教育改革・改善に積極的な意欲を示しているものといえる。